

(令和2年7月試験研究業務月報)

試験研究課題：魚病対策指導事業

情 報

## 養殖カンパチの出荷前検査を実施

栗田湾及び伊根湾で養殖されているカンパチは、5月頃に体重1kg程度の小型魚（種苗）を他県から移入し、数ヶ月間京都府の海で大切に育てた後、夏季から冬季にかけて市場へ出荷します。

カンパチは、春から夏にかけて大型で紐状の寄生虫（人体には無害だが、商品価値を低下させる）が筋肉内にしばしば寄生することが知られており、漁業者にとって悩みの種となっています。

そこで当センターでは、養殖魚の出荷前に寄生虫の検査を行い、高品質で安心・安全な養殖魚を消費者に提供できるよう、漁業者の支援をしています。

今夏に出荷予定のカンパチについて検査をしたところ、人に害を与える寄生虫<sup>\*</sup>や、商品価値の低下につながるような寄生虫は確認されませんでした。

今後、冬季に養殖ブリの出荷も予定されていることから、これらの魚についても順次検査を行い、安心・安全を確保します。

※アニサキスなどの食中毒被害をもたらす寄生虫



寄生虫検査の検体（カンパチ。尾叉長 53.8cm, 体重 2.5kg）